

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

よく学び 心豊かに たくましく生きる子
わかる授業の実施
開かれた学校づくりの推進

＜本年度の学力向上策＞

☆確かな学力の向上のためにわかる授業の実施

☆特色ある教育活動と地域に開かれた学校づくりの推進

◎校内研修の充実

「主体的・対話的に学びあう授業づくり」(国語)で、主体的な態度の育成を図る。対話やグループ学習でというだけではない「学び」を追求した授業を実践する。すべての児童が1時間の授業に集中できるような授業マネジメントを心掛ける。新しい発想を生み出す、自分との対話、友達との対話の場を設定する。やりたいと思わせるような「学ぶ意欲を高める」課題設定を行う。今年度はその手だての1つとして放送を使うことで、児童が課題を把握しやすく、考えをもちやすくなるような授業を行っていく。

◎指導形態の工夫

学校評価アンケートからの課題の1つとして、国語科を中心に児童が自信をもって考えを伝えられるように、児童同士の交流や評価を活発に行う。友達の考えを知ることで複数の視点や考え方に目を向け、自らの考えに生かそうとする姿勢をもたせる。算数科ではT・T指導、習熟度別指導、グループ学習、個別支援を充実させる。ICT機器の積極的な活用を行う。

◎体験的学習の推進

地域の教育力を生かし、地域の人材や保護者ボランティアによる支援を積極的に活用し、さまざまな体験学習により、実感を伴った知識理解を図る。

◎読書活動の推進

学校図書館教育の充実。
読み聞かせ(保護者ボランティア)及び教師読み聞かせを充実させる。

◎言語環境の適正化

教職員も含め、言語環境を整える。また場に応じた言葉遣いを徹底させる。

◎家庭・地域社会との連携

家庭学習チェックカードによる保護者点検で、家庭学習の習慣化を図るとともに地域の教育力を生かす。

＜本年度の振り返り＞

◎今年度は放送教育の研究により、児童が学習課題を把握しやすくなり、意欲的に学習に取り組むことができた。また、自ら進んで課題を解決しようとする姿が見られ、「分かる」ことにつながった。それによって、さらに学習を楽しむことができた。また、児童相互が関わりながら考えを伝え合うような場面を作ることができ、あいまいだった知識を確かなものとする事につながった。

◎児童へのアンケートや学校評価から授業内容はよく理解できているという高い結果が見られた。今後も地域の方の力をお借りして、様々な体験学習を行ったり、指導形態を工夫したりすることで単に知識の獲得のみではない生きた学力を育てられるような取組を進めていきたい。

